

平成26年度「とちぎっ子学習状況調査 5年」の結果概要について

宇都宮市立宮の原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、「開かれた学校づくり」を推進し、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「とちぎっ子学力状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

I 調査の概要

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日 平成26年4月22日（火）

3 調査対象 第5学年

4 留意事項

- ・ 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- ・ 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないが、これを一つの資料として本校の傾向や課題を分析するとともに、指導改善のポイントを併せて記載した。

1. 5年国語

領域等	県と本校の比較 ※	平均正答率(%)	
		宇都宮市	県
話すこと・聞くこと	やや上回る	82.0	78.9
書くこと	同程度	71.5	67.4
読むこと	同程度	54.6	52.1
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	同程度	61.7	58.0

本校の傾向と課題及び指導改善のポイント

【話すこと・聞くこと】

- 話の中心に気を付けて読むことは県平均と同程度で、司会者の話し合いの工夫については県平均より高い。

【書くこと】

- 自分の意見を指定された条件で作文を書くことは、どの設問も県平均と同程度だった。ただ、指定された長さで文を書くことや段落構成を考えて文を書くことは正答率が低く、課題がある。
- 作文指導の時は、文の長さや段落を意識させ、指定した条件で書く練習をさせる。

【読むこと】

- 物語の場面の移り変わりを叙述に即して読むことは県平均より高いが、場面の様子を叙述に即して読むことは県平均より低いか同程度である。説明文を段落相互に注意して読むことは、県平均より低い。
- 物語文では、登場人物の言葉や情景からキーワードを見つけたり、物語の展開を確認する活動を取り入れたりして、内容をしっかり理解できるように指導する。説明文では、各段落の要点をまとめたり、接続語や指示語から段落相互の関係を捉えさせる学習を重視し、確実に内容を読み取ることができるように指導する。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- 漢字の読み、慣用句、漢字辞典の使い方は県平均より高いが、漢字の書きは県平均より低く、正答率も低い。
- 既習の内容について復習を繰り返し行い、定着を図る。

※「県と本校の比較」について	上回る	…全国平均より5%以上、上回っている。
	やや上回る	…全国平均より3%以上5未満、上回っている。
	同程度	…全国平均との差が上下3%未満である。
	やや下回る	…全国平均より3%以上5未満、下回っている。
	下回る	…全国平均より5%以上、下回っている。

児童質問紙調査の状況及び指導改善のポイント

- 国語に関するほとんどの質問において、肯定的な回答の割合が県平均より高い。特に、「国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気を付けて書いている」と回答している割合は17.3ポイントも高い。
- 「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」という質問に対しては、肯定率が県平均と同程度ながら50%を切っており課題がある。
- 家で宿題をしている割合は100%だが、学校の授業の予習・復習をしている割合が県平均よりも低く、50%を切っている。
- 学校図書館司書と連携しながら学校図書室の利用を促進したり、情報モラルの指導を十分にインターネットの利用をさせたりする。また、家庭学習の手引きなどを再確認したり懇談会等で保護者に呼びかけたりして、家庭で宿題以外の学習にも取り組めるようにさせる。また、国語の自主学習の例などを積極的に紹介して意欲を高める。

2. 5年算数

領域等	県と本校の比較 ※	平均正答率(%)	
		宇都宮市	県
数と計算	同程度	79.3	77.1
量と測定	同程度	73.4	72.9
図形	同程度	79.4	78.0
数量関係	やや上回る	67.0	64.0

本校の傾向と課題及び指導改善のポイント

【数と計算】

- ・1/10までの小数×整数は、県平均より高いが、倍とわり算の文章問題を表した図を選ぶ問題は県平均より低い。数直線上に示された分数の表し方についての理解は、県平均と同程度だったが正答率が低く課題がある。
- 関連する学習内容を扱う単元では既習事項を振り返り、学習内容を確認する。また、授業の中で文章問題を扱う際に、数直線等を使って考え方を説明したり記述したりする機会を増やす。

【量と測定】

- ・身近にあるものの面積の推察は県平均より高い。分配法則の理解は県平均と同程度だったが正答率が低く課題がある。
- 計算の工夫について学習する機会があるごとに、分配法則について振り返り、類題を多く取り入れて定着を図る。

【図形】

- ・ひし形の作図は県平均より高いが、長方形の辺どうしの垂直な関係の理解は県平均より低い。
- 図形領域の学習の際には既習事項を復習する時間を設ける。

【数量関係】

- ・伴って変わる二つの数量の関係性を式に表すことや、折れ線グラフの読み取りは、県平均より高い。面積の単位(m²とcm²)の関係の理解は県平均と同程度だが正答率が低い。また、棒グラフと折れ線グラフを比べて、変わり方の違いから二つのグラフが同じではないことを説明する問題では、説明が不十分な解答が県平均より多く、正答率が低い。
- 単位の関係性については同じ領域の単元の時にレディネステストを行い、できていない部分について復習するように指導する。また、授業の中で問題から理解したことを自分の言葉で表現したり、グループでの話し合いから理解を深めたりする機会を増やす。

※「県と本校の比較」について	上回る	…全国平均より5%以上、上回っている。
	やや上回る	…全国平均より3%以上5未満、上回っている。
	同程度	…全国平均との差が上下3%未満である。
	やや下回る	…全国平均より3%以上5未満、下回っている。
	下回る	…全国平均より5%以上、下回っている。

児童質問紙調査の状況及び指導改善のポイント

- ・算数に関するほとんどの質問に対して、肯定率は県平均より高い。特に、「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」と回答している割合は8.9%も高い。
- ・家で宿題をしている割合は100%だが、学校の授業の予習・復習をしている割合が県平均よりも低く、50%を切っている。
- 家庭学習の手引きなどを再確認したり懇談会等で保護者に呼びかけたりして、家庭で宿題以外の学習にも取り組めるようにさせる。また、算数の自主学習の例などを積極的に紹介して意欲を高める。

3. 5年理科

領域等	県と本校の比較 ※	平均正答率 (%)	
		宇都宮市	県
物質・エネルギー	やや下回る	70.8	69.5
生命・地球	同程度	71.5	70.8

本校の傾向と課題及び指導改善のポイント

【物質・エネルギー】

- 「空気と水の性質」では、空気と水を一緒に入れたとき、それぞれがどう押し縮められるかを考える設問が、県平均より低い。
 - 「金属・水・空気と温度」では、金属は温められると膨張することの理解は県平均より高いが、空気と水が温められたときの体積の変化や水のあたためり方の理解や、金属の形状による温めり方の違いを考える設問が、県平均より低い。
 - 「電気のはたらき」では、光電池の光の当たり方と電気を起こす働きの関係から結果を推測する問題で県平均より低い。また、2個の乾電池の直列つなぎの作図では、県平均と同程度ではあるが並列つなぎを作図してしまう誤答が多く、正答率が低い。
- 知識・理解が不十分だった温度による空気や水の体積の変化や水のあたためり方では、実験を通して一人一人に確認させたり実際の生活体験を想起させたりする。実験の技能が不十分だった乾電池のつなぎ方では、関連した単元で直列つなぎと並列つなぎの用語と実際のつなぎ方を繰り返し指導し定着を図る。思考・表現については、知識・理解や実験・観察とも関係が深いので、関連した単元や既習事項の復習をするときに、空気や水の押し縮められ方の違いや金属のあたためり方の特徴や光の当たり方による光電池の電気の起こり方の違いなど、正確な実験や観察を通じて得た正しい知識をもとに、自分の考えを表現できるよう指導する。

【生命・地球】

- 「人の体のつくりと運動」では、県平均と同程度だが、人の背中がまるく曲げられる理由については正答率が低い。
 - 「季節と生物」では、県平均と同程度だった。中でも、身の回りの植物の1年間の成長のようすは正答率が高い。
 - 「天気の様子」では、1日の気温の変化から天気を推測することやコップの表面に付く水滴が空気中の水蒸気が冷やされてできたということの理解は県平均より高いが、気温の正しい測り方は県平均より低く、正答率も低い。
 - 「月と星」では、星の明るさと色はさまざまであることへの理解が県平均より低い。
- 知識・理解が不十分だった星の色や明るさについては、関連する単元などで既習事項を復習したり実際の星を観察したりして確認をする。実験・観察の技能が不十分だった気温の測り方は、他の単元でも気温を記録するときに繰り返し指導して定着を図る。思考・表現で正答率が低かった体が曲げられる理由については、関連する単元や他教科で「関節」の用語をしっかりと指導して、自分の言葉で説明できるようにさせる。

※「県と本校の比較」について	上回る	…全国平均より5%以上、上回っている。
	やや上回る	…全国平均より3%以上5未満、上回っている。
	同程度	…全国平均との差が上下3%未満である。
	やや下回る	…全国平均より3%以上5未満、下回っている。
	下回る	…全国平均より5%以上、下回っている。

児童質問紙調査の状況及び指導改善のポイント

- 理科に関するほとんどの質問に対して、肯定率は県平均とほとんど同程度だが、「理科の学習は将来のために大切だと思う」と回答している割合は県平均よりやや低い。「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある」と回答した割合は100%だった。
- 授業の中で、学習内容が生活の中のどんなことと関係していてどんなふうに生かされているかということを折に触れて紹介し、関心を高める。